

研究施設昭和51年度報告

I 運営会議

7月5日, 第1回運営委員会, 於学部第二会議室, 参加者羽田施設長, 滝沢, 小林, 鈴木, 伊藤, 島田, 吉岡, 松沢, 高野, 竹内, 高見沢, 新井, 布谷各委員, 中村, 赤羽各施設員, 山田庶務係長, 田子会計係長。昭和49年度事業報告, 決算報告, 昭和50年度事業案, 予算案につき討議し承認した。

10月21日, 第2回運営委員会, 於志賀施設演習室, 参加者羽田施設長, 小林, 鈴木, 伊藤, 島田, 松沢, 高野, 竹内, 高見沢, 新井, 布谷各委員, 山田事務長補佐, 山田庶務係長, 田子会計係長。昭和51年度予算運用について, 及び施設利用心得の一部改正につき討議し承認した。

II 施設管理・充実

展示館の開館は5月1日より11月25日まで。自然観察路は5月から6月に整備, 質問板, 植物名札をとりつけた。修学旅行の団体が多く入るようになり, 長池周辺, 環状ルートの破損, 案内板や防護柵へのいたづらが目立つようになった。引率者や旅行会社の係員へごみの処置について注意する。

年度末になって待望の除雪機が入り, 除雪作業はいちじるしく大規模となった。今後冬季の除雪に大きい効果を持つだろう。

III 印刷物

パンフレットは5,000部印刷し, 展示館にて無料配布, 6月から10月まで1日に約30部を出しておくが, たままち利用されて無くなる。研究業績第14号は800部印刷, 予算をきりつめ, 53ページ。各方面へ配布した。

IV 自然教育実習

昭和51年度理科教材単位取得学生の志賀自然教育実習を本年も2泊3日の日程で実施した。第1回6月21日~7月3日4班119名, 第2回8月27日~9月1日2班74名, 第3回10月15~20日2班75名, 合計268名が終了した。当初の予定受講者の84.8%が参加している。18ページのテキストを作製して全員に配布した。第3回の実習には東京教育大, 菅平生物実験所助手林一六氏の助力を得て充実したものとなった。

V 施設利用状況

宿泊施設の一般利用者は延べ2,296名, この内夏季利用者は833名, 冬季利用者は1,463名, 学部関係利用者(学生実習も含む)は延べ638名, 夏季は633名, 冬は5名である。主な利用目的を表1に示した。特に夏休み期間は, ほとんど日がつまるほどに良く利用されている。

展示館, 自然観察路の利用状況は展示館に利用者記名簿をおいて調査した。その結果は表2, 3, 4に示す。記帳されたものだけで本年一年をとおして約21,500名の利用者があった。これは昨年比して約3割の減少である。おそらく不況による志賀高原全般の観光客の減少によるものと思われる。団体として15,965名, 個人としては5,572名であった。個人として訪れるのは8月に多く, これは昨年と同様であるが, 団体としては7月にピークがあり, これは昨年の8月と変っている。団体の大部分は修学旅行であって, 中・高校生が多く, その大部分は関東及び関西方面からのものである。県内の団体では小・中学校が主で, これらは地元周辺の小・中学校であり, 昨年より増加している。

表1

宿泊施設利用の主な利用目的及び利用者	
地質・地すべりセミナー，国土防災技研KK三井敏彦外10名	4月2～4日
山の自然教室，信州大教育学部大村道雄外15名	4月10～11日
イワツバメ標識調査，山階鳥研藤村仁	6月6～8日
1BP地域での土壌調査，玉川大農学部竹島征二外5名	6月5～7日
不可逆過程の統計力学研究会，新潟大理学部横田伊佐秋外9名	7月15～19日
低温実験，信州大教育学部小林詢	7月16～18日
信州大教育学部附属養護学校高学年宿泊訓練，市川千文外40名	7月21～23日
生態学野外実習，東京都立大理学部北沢右三外20名	7月26日～8月1日
1BP地域での土壌調査，玉川大農学部竹島征二外7名	8月5～7日
統計力学研究会，名古屋大工学部中野藤生外19名	8月5～9日
情報とエレクトロニクスデバイスセミナー，金沢大工学部鈴木正国外29名	8月12～14日
染色化学セミナー，信州大繊維学部三石賢外29名	8月22～24日
信州大教育学部附属養護学校低学年宿泊訓練，久保川幹夫外9名	8月26～27日
ポーラグラフ討論会，信州大工学部金子紀男外28名	10月9～10日
自然観察会，信州大教育学部松沢邦彦外20名	10月23～24日
動物生態セミナー，千葉大理学部八木和主男外1名	10月25～27日
1BP地域内の土壌調査，玉川大農学部竹島征二外5名	10月25～27日
池沼の生物及び水質調査，富山県立技術短大安田郁子外2名	11月1～4日
河川昆虫・ブユの調査，富山県衛生研上村溝外1名	11月1～4日
野尻湖発掘の地質検討会，信州大教育学部赤羽貞幸外14名	11月20～23日
雪面上の染色物の退色について，信州大繊維学部三石賢外14名	2月12～13日
降雪機構と雪の酸素同位体組成に関する研究，名古屋大水圏科研加藤喜久雄外6名	2月16～19日
ニホンザルの寒冷適応の調査，京都大霊長研大沢濟外9名	2月16～23日
登山者のための山と自然学習会，信州大教育学部大村道雄外20名	3月27日
岩菅山周辺の冬季卓越風向の調査，信州大教育学部小林詢外6名	3月28～29日
科学教育研究セミナー，信州大教育学部平沢進外2名	3月29～31日
常時利用者	
湖沼の研究	市村吉正（高島小学校）
コマドリ生活史研究	工藤悦男（信州大教育学部生態研）

表2 来館団体の種類

	県 外		県 内		計	
	団体数(%)	人 数 (%)	団体数(%)	人 数 (%)	団体数(%)	人 数 (%)
小 学 校	18(8.7)	1,641(11.0)	4(26.7)	225(20.6)	22(9.9)	1,866(11.7)
中 学 校	44(21.2)	5,326(35.8)	5(33.3)	772(70.8)	49(22.0)	6,098(38.2)
高 等 学 校	62(29.8)	5,820(39.1)	0(0.0)	0(0.0)	62(27.8)	5,820(36.5)
大 学	34(16.3)	867(5.8)	2(13.3)	20(1.8)	36(16.1)	887(5.6)
一 般	50(24.0)	1,221(8.2)	4(26.7)	73(6.7)	54(24.2)	1,294(8.1)
計	208(100.0)	14,875(99.9)	15(100.0)	1,090(99.9)	223(100.0)	15,965(100.1)

表3 団体数の県内外の比率(%)

	団 体					計
	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	大 学	一 般	
県 内	18.2	10.2	0.0	5.6	7.4	6.7
県 外	81.8	89.8	100.0	94.4	92.6	93.3

表4 月別参観者数

月	個 人 (%)	団 体		計
		団 体 数(%)	人 数(%)	
5	471(8.5)	16(7.2)	1,384(8.7)	1,855(8.6)
6	308(5.5)	24(10.8)	2,449(15.3)	2,757(12.8)
7	1,431(25.7)	93(41.7)	6,792(42.5)	8,223(38.2)
8	2,766(49.6)	60(26.9)	2,859(17.9)	5,625(26.1)
9	218(3.9)	11(4.9)	842(5.3)	1,060(4.9)
10	371(6.7)	19(8.5)	1,639(10.3)	2,010(9.3)
11	7(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(0.0)
計	5,572(99.9)	223(100.0)	15,965(100.0)	21,537(99.9)